

## CONTENTS

秋季企画展 絵画史料に見る 江戸の洋楽事始	2
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	3
友の会研修バス旅行・史跡見学会・NEWS FILE	4・5
冬季企画展 日本の化学の夜明けと津山の洋学者	6
資料館展示品から	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 21

February, 2018

麒麟<sup>キリンビール</sup>麦酒株式会社を創業した下高倉東の米井源治郎<sup>みつくり</sup>の生家です。其作<sup>あきとし</sup>と眞作<sup>まこと</sup>秋坪<sup>あきひら</sup>に学び、1880(明治13)年にイギリス留学を果たし、1885(明治18)年に明治屋を創業したのは、津山出身の実業家磯野<sup>いその</sup>計<sup>はかる</sup>。その計の没後、明治屋を引き継いだ又従兄弟の源治郎は、国内販売をしていたキリンビールの製造権を取得、1907(明治40)年に麒麟麦酒株式会社として創業することになります。源治郎の顕彰碑が、現当主によって建てられています(写真右端)。(津山市下高倉東)  
文・写真 下山純正 氏



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING





秋季企画展  
絵画史料に見る  
**江戸の洋楽事始**  
会期：10月7日(土) ～ 11月5日(日)



いわゆる「鎖国」政策によって、海外との交流が厳しく制限されていた江戸時代にも、長崎の出島を通じて西洋の音楽は少しずつもたらされてきました。その音色を直接耳にできたのは、限られた人々でしたが、珍しい楽器を演奏する様子は、異国情緒を感じさせるものとして、長崎版画などの絵画に描かれました。

『解体新書』の刊行によって江戸で蘭学が興隆を始めると、蘭学者たちは西洋の文化を学ぶ中で音楽にも関心を広げました。『訳鍵』などの蘭日辞書には、音楽関係の用語も収録されています。そして、津山藩の洋学者宇田川榕菴は、日本で初めて西洋の音楽を学術的に研究。多くの貴重な原稿を残したのです。

やがて黒船来航、開港、明治維新へと時代は大きく変わっていきます。海外との交流が増える中で、人々が西洋の音楽に接する機会は次第に増え、その様子は黒船絵巻、横浜絵などに描かれています。

本展では、こうした、楽器や演奏風景を描いた絵画28点を展示し、江戸時代における西洋音楽の受容についてご紹介しました。これらの絵画には、想像や、本からの模写で描かれたものもありますが、江戸時代の人たちが、目にし、耳にした「洋楽」の調べを感じていただく機会にできたかと思えます。

観覧された方からは、「榕菴は化学や植物学の研究が有名だが、音楽にもこれ程の業績を残していることに驚いた」などの声が多数寄せられました。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、神戸市立博物館をはじめ、貴重な資料をご出展いただきました所蔵者の皆さま、ご協力を賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。



津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム  
磯野計生誕160周年記念  
**明治屋創業者 磯野計とその時代**  
—ヨーロッパの経営思想と食文化へのあこがれ—

講演 「磯野計とその時代 —江戸時代、西洋食文化へのあこがれ—」  
東洋大学教授 岩下 哲典 先生  
「磯野計と明治屋の経営」  
高知工科大学准教授 生島 淳 先生  
「津山地方における磯野計の足跡をめぐって」  
津山洋学資料館元館長 下山 純正 先生  
シンポジウム 「磯野計の思想と実践」  
主催：公益財団法人上廣倫理財団・津山市教育委員会 / 後援：文化庁・岡山県教育委員会

10月14日(土)、津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラムを開催しました。これは、公益財団法人上廣倫理財団の支援を受けて平成23年から開催しているもので、今年で7回目になります。今回は磯野計をテーマに、講演とシンポジウムを行いました。

磯野計は津山に生まれ、箕作麟祥、秋坪に英学を学び、東京大学を卒業して法学士となったのち、三菱会社の給費留学生としてイギリスで商業実務を学びました。最初に岩下哲典先生が、計の生涯を解説し、さらに明治屋を創業して西洋の食文化を日本に導入、定着させたのが計であったとお話しされました。

続いて生島淳先生が、計は「世界のベスト(最上品)を売る」という本物志向の信念を持ち、顧客第一で経営の近代化を図ったこと、先駆的な広報活動によって販路を拡大していったことを説明されました。最後に下山純正先生が、津山や倉吉に残る、計やその跡を継いだ米井源治郎、磯野長蔵ゆかりの史跡を写真で紹介されました。

シンポジウムは「磯野計の思想と実践」をテーマに3人の先生がご講演の内容を掘り下げ、計は早世しますが、計の時代の起業の種、精神は、次世代へ受け継がれたとまとめられました。参加した方々は熱心にお話に聞き入り、終始熱気にあふれたフォーラムとなりました。



第37回 友の会研修バス旅行

特別展「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」と  
富田林寺内町の町並みを訪ねて！！

9月10日（日）、友の会の第37回研修バス旅行を開催しました。朝7時30分に津山を出発し、バスで一路大阪へ。10時の開館と同時に国立民族学博物館へ入館し、特別展「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」を見学しました。

この特別展は、現在ミュンヘン五大陸博物館が所蔵するシーボルトの収集資料から、シーボルトが構想した日本博物館を再現するというものでした。千葉や東京、長崎を巡回し、大阪が最後の会場



国立民族学博物館で記念撮影



富田林寺内町を散策

昼食を終えて、午後からは富田林市に移動し、大阪府で唯一伝統的建造物群保存地区に選定されている寺内町の町並みを、ボランティアガイドの小田洋子さん、澤武史恵さん、山口完内さんのご案内で巡りました。



富田林寺内町を散策

NEWS FILE  
展示解説を  
多言語化しています

資料館では現在、展示解説の多言語化を進めています。まず、吉備国際大学小西伸彦先生のご協力で、同大学の金沢真弓先生、孫基然先生、李分一先生に翻訳していただいて、英語・中国語（簡体字）・韓国語版のパンフレットを作成しました。すでに海外から来館された方々にお配りしています。

また、英語・中国語・韓国語・オランダ語の音声ガイドダンスも作成中で、3月末に導入予定です。



第30回 友の会史跡見学会

井原市芳井町築瀬の洋学史跡を訪ねて  
緒方郁蔵・山鳴大年・阪谷朗蔵

12月10日（日）、友の会の史跡見学会を実施しました。今回は第30回を記念して、備中地域まで足を伸ばしました。

津山からバスで2時間半、最初の訪問地である緒方郁蔵の旧宅に



緒方郁蔵（研堂）旧宅の前で大戸さんと記念撮影

到着すると、郁蔵の妹のご後裔である大戸貴美江さん、陽子さんが迎えってくださいました。郁蔵は旧姓を大戸といい、この旧宅で生れて、のちに江戸遊学で知り合った緒方洪庵の義弟となりました。

陽子さんから貴重な家伝史料のご説明や、温かいお茶とお菓子のおもてなしをいただき、別れを惜しみつつ次の見学地である、阪谷朗蔵の開いた桜溪塾と顕彰碑へ。ここでは、井原市教育委員会の首藤



桜溪塾

ゆきえ先生にご案内いただきました。朗蔵は、桜溪塾や郷校興譲館で多くの後進を育成、儒学者として唯一明六社にも参加しました。現在も、井原市の人々に敬愛されているのだそうです。



山鳴大年の墓所にお参り

資料館職員による  
オムニバス講演会開催

1月28日（日）、7回目となるオムニバス講演会（職員による研究報告会）を開催しました。

今回は「菊池大麓ってどんな人？」をメインテーマに、大麓が著した幾何学の教科書について解説した「最後は円満に」（大倉）や、「大麓と菊池家」（乾）、「慶応2年のイギリス留学生」（田中）という個別テーマで、没後100周年を迎えた大麓について研究報告しました。

当日は小雪の舞う寒い日でしたが、大麓のご令孫である菊池愼一さんをはじめ、たくさんの方が参加してくださいました。

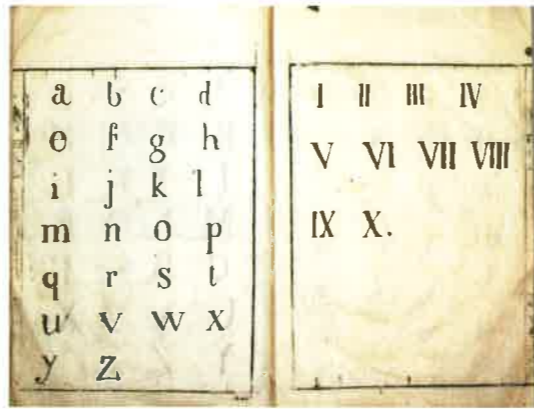
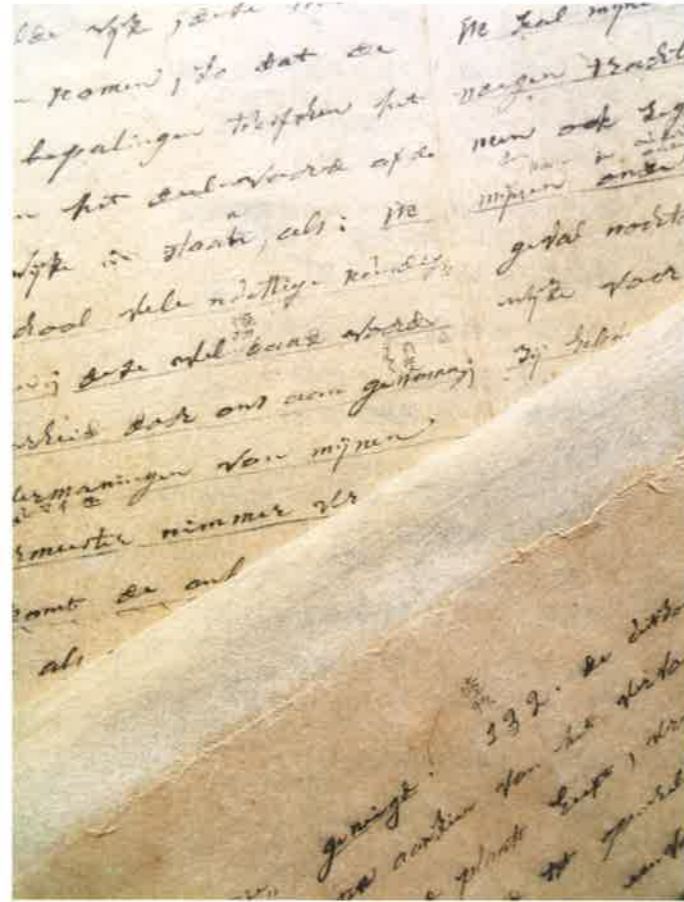




資料館展示品から

幕末～明治初年、津山における語学学習

オランダ文の書かれた  
ふすまの下貼り



久原躬弦「和蘭阿部世」  
活字体・筆記体のアルファベット大文字・小文字と  
1から10までのローマ数字が書かれています。

これは、箕作阮甫の『和蘭文典』など、オランダ語の2種類の文法書と医学書を写したものです。津山市内の民家のふすまを張り替えしていた際に下貼りから発見され、寄贈していただきました。写した人が誰かは分かっていませんが、おそらく幕末頃に津山で筆写されたと考えられます。

1864（元治元）年に津山に生まれ、のちに早稲田大学の学長を務めた平沼淑郎は、自叙伝「鶴峯漫談」で、幕末から明治初年頃の津山の様子を、「箕作氏や宇田川氏の感化で、大抵の人はエービーシーぐらゐは口誦んでいた。」と述べています。こ

この下貼りは、淑郎の回想通り、当時津山で語学の学習に励んでいた人がいたことを物語る、貴重な資料なのです。

淑郎より9年早く、1855（安政2）年に津山に生まれた久原躬弦も、少年時代にオランダ語の学習をしました。躬弦が書いた「和蘭阿部世」には、活字のようなきれいな筆致で、最初のページに「A・B・C」とアルファベットの大文字が記され、「ア・ベ・セ」とオランダ語の発音が書き添えられています。

しかし、1853（嘉永6）年のペリー来航以降、段々とオランダ語に代って英

語の必要性が高まっていました。躬弦も、1868（明治元）年、14歳で宇田川準一や磯野計らとともに神戸へ赴き、当時神戸洋学校の教師を務めていた箕作麟祥のもとで英語を学んでいます。

さらに翌年には上京して箕作秋坪の英学塾三叉学舎へ入門。16歳で藩の貢進生として大学南校へ進み、東京大学を第一回生として卒業したのち、アメリカ留学を果たすことになりました。その際に、少年時代から培ってきた語学力が活かされたことは、想像に難くありません。

文：学芸員 田中美穂



冬季企画展  
日本の化学の夜明けと  
津山の洋学者

■会期：平成29年11月18日（土）～平成30年2月25日（日）

宇田川榕菴が、日本で最初の化学書『含密開宗』の刊行を開始してから180年の時が経過しました。洋学者たちによるオランダ語の書の翻訳から始まった日本の近代化学は、この間、飛躍的な進歩を遂げてきました。本展では、こうした黎明期における日本の化学の歩みと、その中で業績を残した津山の洋学者についてご紹介しました。

展示冒頭では「薬学から化学へ」と題して、榕菴が養父玄真と刊行した『和蘭薬鏡』で、化学的処理を加えて作る「製鍊薬劑」を紹介したことや、『遠西医方名物考補遺』で元素編を設けたことなど、宇田川家が薬学から化学へ研究を広めた様子を展示。あわせて「親試実験」を旨とした榕菴が実際に行なった実験や、榕菴が考案した化学の用語をパネルで紹介しました。

榕菴の養子となった興斎も化学への造詣が深く、興斎の訳書『万宝新書』には化学知識を応用した内容が収められています。さらにその息子の準一は、大坂開成所でリッテルに理化学を学び、『化学階梯』『物理全書』などの教科書を著しました。

また、二階町出身の久原躬弦は、東京大学化学科を第一回生として卒業し、京都帝国大学の総長を務めました。躬弦の関係資料は、平成28年春に、「明治期日本の化学の先駆者 化学会初代会長 久原躬弦関係資料」として、（公社）日本化学会の認定する化学遺産の第35号となっております。今回初めて、認定資料を一度に展示することができました。

観覧した方からは「わずか200年足らずで、日本の化学がこれ程の進歩をしたことに驚いた」「榕菴がわくわくしながら実験に取り組んでいた様子が伝わった」などの声が寄せられました。



# INFORMATION

## 平成30年度の催し物(予定)

## 企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「明治150年記念 洋学資料館所蔵資料から見た 文明開化と美作の医学」</li> <li>28 第73回文化講演会 「平賀源内と博物図譜」 講師：元香川県立ミュージアム学芸員 松岡明子 先生</li> <li>28 友の会総会 (休館日：16・23日)</li> </ul>	3/10~ 明治150年記念 洋学資料館所蔵資料から見た <b>文明開化と美作の医学</b> ~6/24
5月	(休館日：1・2・7・8・14・21・28日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会研修バス旅行 (休館日：4・11・18・25日)</li> </ul>	7/7~ 洋書が伝えた 不思議な生き物 ~9/24
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「洋書が伝えた不思議な生き物」</li> <li>28 親子でヒンデローペンの作品づくり</li> <li>29 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：2・9・17・18・23・30日)</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の化学書からの再現実験教室</li> <li>自分だけの「解体新書」を作ろう (休館日：6・13・14・20・27日)</li> </ul>	10/6~ 天を測り 地を量る ~11/18
9月	(休館日：3・10・18・19・25・26日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「天を測り地を量る」 (休館日：1・9・10・15・22・29日)</li> </ul>	12/1~ 美作地域の 華岡門人 ~2月下旬
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「美作地域の華岡門人」</li> <li>津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム (休館日：5・6・12・19・26・27日)</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会史跡見学会 (休館日：3・10・17・25・26・29～31日)</li> </ul>	3月 (休館日：4・11・18・22・25日)
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>27 学芸員による研究報告会 (休館日：1～3・7・15・16・21・28日)</li> </ul>	
2月	(休館日：4・12・13・18・25日)	

■ 企画展   
 ■ 催し物   
 ■ 講演会   
 ■ 友の会

## 平成30年度春季企画展

### 明治150年記念 洋学資料館所蔵資料から見た 文明開化と美作の医学



東京名所之内 上野山内一覽之図

会期：平成30年3月10日(土)～6月24日(日)

### ・ ・ ・ 刊行物のお知らせ ・ ・ ・

■ 洋学研究誌「一滴」第25号を刊行します。

#### 目次

- 牧穆中の訳述『ベルリン青製法』と蘭書原本  
— 宇田川榕菴「舎密開宗」との関連など —  
…野村正雄
- オランダ王国の日本開国論 …今津浩一
- 平成28年度企画展報告  
日本とロシア — 箕作阮甫・秋坪の対露交渉 —  
言の葉の海へ — オランダ語翻訳に挑む —  
生誕170周年記念 日本近代法学の祖 箕作麟祥  
山田純道生誕180周年記念 海田の医家 山田家の人と学問
- 資料紹介 山田家所蔵「乳巖図」について  
…田中美穂
- 長谷川仁氏旧蔵「伊藤篤氏資料」について  
— 伊藤圭介から孫篤太郎への学の継承に関する  
考察を兼ねて —  
…土井康弘

3月末刊行 全110頁 800円

## ご利用案内

■ 開館時間 / 9:00～17:00

(入館は16:30まで)

■ 休館日 / 月曜日(祝祭日の場合はその翌日)

祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

■ 入館料 /

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※ ( ) 内は30名以上の団体料金です。  
※ 小学生・中学生は無料です。



**津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



### ● 交通のご案内

- ・ JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・ 中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分